

令和8年度 医療従事者の負担軽減及び処遇改善に資する計画

1 勤務医の負担軽減及び処遇の改善に資する計画

① 医師と医療関係職種、医療関係職種と事務職等における役割分担

項目	目標達成年次	具体的な取り組み内容
初診時の問診の実施	令和8年度中	外来クラークによる完全問診の実施
	令和9年度	初診患者を対象としたiPadを用いた問診を導入するにあたり、システム上の課題を整理しつつ検証を行う。
静脈採血等の実施	一部実施 令和8年度も継続	外来は、採血室で検査技師が採血する。病棟は、検査技師と看護師に完全に移行する。
入院説明の実施	実施済み 令和8年度も継続	患者サポートセンターが予約入院及び緊急入院を含めて全診療科の入院患者に入院前支援業務を実施する。
薬の説明や服薬の指導	実施済み 令和8年度も継続	服薬指導を通じて把握した患者情報から積極的な処方を提案する。
	実施済み 令和8年度も継続	プロトコルにより疑義照会件数を月30件以下に減らす
	実施済み 令和8年度も継続	DI情報の提供、持参薬の管理など継続的な実施
病診連携・外来縮小	一部実施 令和8年度も継続	他院からの転院紹介患者の相談をMSWが初期対応をする。病状が安定した患者を積極的に開業医に紹介する。
NDCの活用	令和8年度も継続	救急患者の予診・問診、静脈採血及び入院説明を行う。特定ケア看護師業務マニュアルに沿った特定行為及び代行入力

② 医師の勤務体制に係る取組

項目	目標達成年次	具体的な取り組み内容
勤務計画上、連続当直を行わない勤務体制の実施	実施済み 令和8年度も継続	口腔外科のオンコールを連続としない勤務表の作成
	実施済み 令和8年度も継続	休日の日当直が別の医師になるよう勤務表を作成する。
複数主治医性の実施	一部実施 令和8年度も継続	複数の医師によるチームの編成を推進する。
多様な勤務形態の導入	令和9年度	医師短時間正職員就業規程を整備する。
勤務間インターバル	実施済み 令和8年度も継続	適正な勤務時間管理を行い、出退勤時間の把握と休息時間の確保を確実に行う。
常勤医師の確保	毎年	大学派遣、紹介会社を通じて利用できる手段を取り入れ、医師確保に努める。

令和8年度 ～看護職員の負担の軽減及び処遇改善に対する計画～

報告区分	項目	現状	目標
夜勤の負担軽減	月一人当たりの夜勤時間数の減少	一人当たりの夜勤時間数が32時間～80時間	月一人当たりの夜勤時間数が72時間以内
妊娠・子育て等の看護職員に対する配慮	業務の軽減	本人の申し出があれば夜勤を免除 本人の申し出があれば育休後の部分休業	夜勤の減免制度 部分休業
		病院保育所の設置(夜間保育対応) 月1回預けられない日曜日がある	24時間毎日預けられる朝8時前に預けられる
看護職員と多職種との業務負担	看護職員への研修	看護補助者への研修(腰痛予防体操)	看護職員の身体的負担軽減を図る
	採血準備 実施	15時過ぎの指示は看護職員が準備	病棟採血の準備と実施
		休日の採血は外来看護師が実施している	状況により休日の外来採血実施
	検査容器の管理	看護師が検査容器を管理している	スワブ・培養期限等チェック
	病棟薬剤管理	退院時の服薬指導の実施 入院時の持参薬確認を看護師が実施 病棟での薬剤管理(配薬準備)は看護職員が行っている	退院患者の服薬指導 入院患者全員の持参薬確認 持参薬から当院処方への変更
	配置薬管理	使用期限等在庫管理を看護師が実施	配置薬管理の確認
	検査説明(放射線)	検査説明(CT/MRI)は看護師が行っている	外来の検査説明実施
	検査送迎	看護師と補助者で送迎を行っている	患者の送迎
	歯科衛生士との連携	全身麻酔患者への口腔ケア実施	看護師への口腔ケア指導の実践 ケア終了後病棟へ搬送する
	入退院支援	入退院支援室看護師及び病棟師長が調整を行っている 専任の看護師が配置されている	入退院支援室看護師と協働し 退院支援・調整の実施
	事務	代行可能な業務を行っている。	高度医療機器用紙記入 施設の処置オーダーの実施入力
看護補助者の連携	看護補助者の充実	一般病棟で部分休業のため早・遅番の勤務できるスタッフが不足している	看護補助者の募集 (夜勤ができる職員) 処遇改善手当令和6年4月から開始
	看護職員の教育	看護師のガイドラインに対する理解不足	看護補助者活用に関する研修実施